ジャック・ザ・リッパー

仄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ジャック・ザ・リッパー

【Ｎコード】
Ｎ６８０２Ｆ

【作者名】
仄

【あらすじ】
少年エドガーと探偵グレイスがジャック・ザ・リッパーを捕まえようと奮闘するホラー系ミステリアス小説

第1話：真夜中の殺人鬼（前書き）

多少グロテスクが入ってます。
平気な方だけお読み下さい。

第1話：真夜中の殺人鬼

此処フランスには今奇妙な連続殺人犯がいる…

名をジャック・ザ・リッパーと言う

エドガーが町を歩いていると
新聞が配られた。
見出しには―…連続殺人鬼ジャック・ザ・リッパー現る…―と、
記事を読むと
またもジャック・ザ・リッパーが出た。
昨日の午前0時17分エンター町の最北にある倉庫で女性の悲鳴が
聞こえ近くにいた倉庫の作業員が悲鳴を聞き付けその場え行くと1
6分割になった20代前半の女性の死体があった。
と…
「またかよ…」
号外を読んだエドガーはつい言葉が漏れてしまった。
それもそのはずだ。ジャック・ザ・リッパーが人を殺すのはこれで
12人めだ。
しかも若い女性ばかり、そのせいで町にはジャック・ザ・リッパー
の手配書でいっぱい。何処を見てもジャック・ザ・リッパーばかり
だ。

「はぁ…ジャック・ザ・リッパーもよくやるよな」
エドガーは通っている中学校に入り教室に入った

「よぉエドガー今日はやけに遅いな」
幼なじみのルドルフが言う

「これ読んでたんだよ」
エドガーはさっき貰った号外をヒラヒラと見せる

「お、ちょっと読ませろ」
ルドルフが号外を取り

「またジャック・ザ・リッパーかよ…」
と呟く
「当たり前だろ最近はジャック・ザ・リッパーを怖がって他の犯罪者は出てこない…しかも号外なんてジャック・ザ・リッパー以外ありえないだろ？」

「そっか」
ルドルフが納得し何かを思い付いたように笑い

「なぁエドガー。最近ジャック・ザ・リッパー毎日出てるだろしかも0時頃に」

「うん。だから？」

「見に行こうぜ」

「はぁ！？馬鹿じゃねぇの行って見つかりでもしてみろ即効殺られるぞ！！」

「だって男は狙ってないじゃん」

ルドルフが言い訳のように吐き捨てるとはぁ…とため息をつきエドガーが

「わかったよ。じゃあ今日の0時丁度にエンター町のアストラ広場な」

「了解！」

そして学校が終わりあっとゆう間に0時になった

「さみぃ…」

エドガーは、ぼやきながらルドルフを待っている。

「ゴメン！遅れた」

ルドルフが走って来る。

「おせぇよ！なにしてたん」

怒り気味にエドガーが尋ねると

「これ探してたんだよ」

とルドルフがポケットからサバイバルナイフの取り出す。

「お前何持ってきてんだよ」

エドガーが青ざめる。ルドルフが

「へへッ」と笑うと

「きゃぁぁあ！」

女の悲鳴だ！しかも若い女。

「おい」

エドガーがルドルフの肩を叩く

「ああ間違えねぇ…行くぞ！」

ルドルフが走り出しエドガーがついていくすると何かが見える…
何か缶のようなものが落ちている。
まさかと思い近寄るとやはり女のバラバラ死体だ。

「おい…やべぇぞ…」

エドガーが真っ青な顔で言う
すると背後から足音が聞こえる。
ゆっくり振り返るとシルクハットを深く被り真っ黒のコートに身を包んだ男が立っていた。手には血が着いた短剣を持っている。
エドガーは驚きと恐怖で声が出なかった。

「これがジャック・ザ・リッパー…」

そう言ったのはルドルフだった。
エドガーは腰が抜け地面にペタンと座り込んでいる。
その瞬間ジャック・ザ・リッパーが凄い速さでこっちに走ってくる。
エドガーは無理矢理立って逃げようとしたが、ルドルフはサバイバルナイフを取り出しジャック・ザ・リッパーに向けた。

「逃げろ！ルドルフ！」

エドガーは力いっぱい叫んだ。だが時はもう遅く。ルドルフの目の前にジャック・ザ・リッパーがいる状態だ。

その時瞬間移動のようにジャック・ザ・リッパーがルドルフの後ろに回り込んだ。

「さぁ、深紅の血の薔薇を咲かせな…」

そういった次の瞬間ルドルフの首が空中に吹っ飛んだ。

「うわぁぁあ！」

エドガーが恐怖に怯え叫ぶと、声を聞き付けた町人が出て来た。ジャック・ザ・リッパーは、人の気配を感じ取り素早く逃げて行った。

「大丈夫か！？」

町人の若い男性がエドガーに尋ねる。

エドガーはガチガチと震えるだけだった。

「とにかく今日は家に帰れ。送ってやる。」

すると

「ダメ…だ…。ルドルフが…死んでるん…だ。ルドルフ…が…」

瀕死ギリギリの状態でエドガーが言う。

「くそっ！今夜は二人かよ。とにかく今日は俺の家に来い。」

そう言われその男性の家で夜を過ごし父親が迎えに来た。
エドガーの家は父子家庭だ。
エドガーが幼い時に母親を殺された。
家に帰りエドガーは誓った。

そう、絶対ジャック・ザ・リッパーを捕まえて死刑にしてやると

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6802f/

ジャック・ザ・リッパー

2010年10月9日21時56分発行